

しようとしないので、我々の分會が猛烈な準備活動を開始し、それによつて、遂にスト委員會が成立した、といふやうな場合などにも、いつ火ぶたを切るかど重要な問題になる。

(三) 一般的には、――

一、ストライキ開始によつて敵が最も大きな打撃を受けるとき

二、従業員一般の氣勢の最も上つたとき

三、給料日のあと

四、スト準備が一應出来たとき

等々が考慮されねばならない。

(ホ)ゼネストの場合、もしくは、全然、攻勢的なストライキの場合などには、より廣範圍な諸事情が考慮されねばならないが、最近の普通の争議――受身の争議――では、ストライキ開始の時期選定の問題は非常に狭められた範圍内でのことだから、大體以上のことが基準になる。それだけになほさらデリケートな注意が必要だ。

(ロ)無準備でストライキを開始することは一番悪いことだが、準備々々とそればかりに注意をとられてゐて、ストライ

キ開始の絶好のチャンスを取り逃がしたといふやうなことがあつてはならない、果斷はかかる場合に最も必要だ。(ト)ストライキ開始の宣言は、如何なる場合にも『突如これを行ふ』ことが必要だ。二日三日前から『いつ何日にストライキの火ぶたを切る』といつたやうなことを一般大衆に知らせて置くことは絶対に禁物だ。敵にすつかり用意されて了ふから。殊に、職場占領が計畫されてゐるときなどはなほさらのことだ。

#### G ストライキの基本的闘争方針

(イ)先きに述べた「ストライキの基本戦略」の問題は甚だしい「定石」だ。定石を知らない人間の甚はいくら巧者でもザル其の範圍を出ない。だが、定石的知識がいくらあつても、それを實際の局勢に適應して活かすことを知らない人間の甚もヘボ甚だ。ストライキの戦略戦術に關しても同じことが言へる。

(ロ)たとへば「敵の最も弱い一環を見極め味方の攻勢力をそこへ集中しろ」といふ規定があるが、實際の争議の場合に敵の最も弱の一環がどこに在るかを見極めることが

出来なかつたら、さうした戰術的規定を何百噸記してゐるところで何の役にも立たない。

(ハ)好景氣時代なら争議の戦略戦術だと争議の基本的闘争方針だといつたやうな、しちめんどうなことを言はなくとも、争議團は單に罷業状態に入つただけで、資本家に相當の打撃を與へ、争議を比較的簡單に解決に導き得たが現在では、すべての條件が遙かに複雑になつて來てゐるから、さう簡單には行かない。ストライキ指導者は必ず、ストライキ開始前にすべての客觀的主體的條件を嚴密に分析し争議の基本的闘争方針を樹て、おくことが必要だ。基本的闘争方針なしに争議を開始することは、激浪逆巻く大洋の中へ羅針盤なしの船を出すやうなものだ。船は途中で暗礁へ乗り上げて了ふか、飛んでもない方向へ迷ひ込んで了ふか、萬一目的地へ到達し得ても、必ず大破損を受けてゐる。

(ニ)基本的闘争方針を樹る場合には、先づ『どこへ攻撃力を集中するか?』を決定しなければならぬ。この問題は政治闘争の場合やゼネストの場合なんかには、非常にむづかしい問題だ。その一點を突いたら敵に致命的打撃を與へ得るかを見極めるのが容易でないから、だが個々の資本家

を相手にした争議の場合には、割合に簡單な問題だ。なんとなれば、労働者が資本家に決定的打撃を與へ得るのは「敵の營業を完全に停止させる」以外にはないのだから。

(ホ)だから、この問題に就いては、かうハッキリ言ひ切ることが出来る。「工場」の争議の基本的戦略を樹てる場合には、如何にして敵の營業を完全に停止させるかを中心目標とせよ。

(ハ)だが「敵の營業を完全に停止させる」ことは、決して容易な業ではない――簡單だといふのは戦術上の目標を發見するのが簡單だといふだけのことだ――好景氣時代なら従業員が工場を引上げると、大抵の工場は、全く營業がとまつて了たが、今日では、資本家共の間には、平生から協定が出來てゐて、争議が始まると、仕事をほかの工場へ廻して營業をつづけるだけの準備が出來てゐるし、それだけでなく奴等は、失業者軍が増大した爲めに、比較的容易にスキヤップを備ひ入れることが出来るものだから。それに國家権力による干渉彈壓も最近愈々露骨になつて來たし、更らにまた、大抵の大工場では、平生から労働貴族とその子分共を養つて置いて、いざといふ場合にそなへてゐ